



# 祖父母と生きたあの日々が、 今のわたしをつくっている。

おじいちゃんおばあちゃんと、ごはんを食べることが多かった。

テーブルにヒジをついたら怒られたけど、それ以外は優しくかった。

生まれたときから二世帯ぐらし。

両親は共働きで平日はあまり家にいなかったけど、寂しい思いをしたことはなかった。

おばあちゃんが先に亡くなり、おじいちゃんはどんどん弱っていった。

ある日、おじいちゃんは、わたしをお母さんの名前で呼んだ。

お母さんの若い頃だと思い込んでいた。わたしは泣いた。

それから、おじいちゃんを家族で支える生活が始まった。

手伝いたくて、母にお願いして、おじいちゃんの朝食はわたしが作った。

おじいちゃんの天然ボケは、お笑いのボケとはぜんぜん違い、

ときどき家族でほっこり笑えた。

あいさつや礼儀、モノを大切に作る心、生きるということ。

祖父母から学んだことは、わたしの人生の糧であり、誇りであり、宝物だ。

## 二世帯ぐらし30年、今、笑っている。

考えよう。答はある。

## ヘーベルハウス

**事実。二世帯で育った「孫の90%」が「祖父母とのくらしは満足だった」と答えています。**

(旭化成ホームズ「30年暮らした家族による二世帯住宅の評価と住まい継承の実態」調査より)